

## 原子炉利用研究者グループ幹事会 議事録（案）

1. 日時：平成 25 年 7 月 8 日（月） 12:15～13:00
2. 場所：京都大学原子炉実験所図書棟会議室
3. 出席者：海老原充、永井康介、鷺山幸信、笠田竜太、堀史説、増永慎一郎、徐虬、  
佐藤紘一、高宮幸一、田中浩基、齋藤泰司、田野恵三、八島浩  
(13 名、敬称略、順不同)

### 4. 配布資料

議事次第

原子炉利用研究者グループ規約

原子炉利用研究者グループ総会議事録（案）

### 5. 議事

- (1) 代表幹事挨拶（海老原代表幹事）
- (2) 次年度の選挙方法について

Web による投票システムを導入する計画があるとの報告があった。運営委員会委員、共同利用研究委員会委員の選挙にはすぐに導入できるかどうか分からないが、グループ幹事の選挙には導入可能である。

- (3) 原子炉利用研究者グループ会員活動について

①平成 25 年度 原子炉運転計画変更について説明があった。

7 月から 11 月は原子炉棟スタック工事のため KUR の運転は停止する。工事のための申請が遅れ気味であるため、12 月以降まで停止期間が延びる可能性もある。

また、原子炉の新規制基準が施行されると現状では出力 5MW では連続 7.5 時間までしか運転できなくなるのもっと長時間運転できるようにならないかとの意見があった。

②共同利用研究推進室の進捗状況について報告があった。

共同利用研究の公募要項を改定し、来年度から実行する予定である。改定の主な項目については以下の通りである。

- ・共同利用研究で支給されていた消耗品費を基本的に廃止する。どうしても実験で必要な消耗品、特に液体窒素や毒劇物薬品等の所外研究者が持ってくるのが難しいと思われる物については消耗品費の支給を申請してもらい審査する。目安となる消耗品費の上限は要項に記載する。
- ・一人の研究者からの複数の申請を許可する。ただし、あまりにも申請内容が重なっていると判断されたものは認めない。
- ・審査方法は今までほぼ 100%通していたが、今後はあまりにも新規性や波及効果

が見られそうにない研究、また特に内容がひどい場合は、採択しない可能性がある。また、点数付けをすることで、マシンタイムや旅費の予算配分にあまり不公平にならない程度に傾斜を付けることも検討している。

旅費の配分は最終的に共同利用委員会で決定する。

- ・研究者が KUR に足を運ぶことなく、試料のみを受け取り、照射後に試料を送り返す単純照射は廃止する。

### ③その他

共同利用宿舎について議論が交わされた。

- ・KUR の宿舎は古く、特に女性の中には泊まりたくないという人もいる。全国の研究施設の宿泊所でランク付けをしたらかなり低くなるため、改善できないものかという意見があった。

→KUR としては概算要求で宿舎の建て替えを要求しているがいつ予算が付くかは分からないとの報告があった。

- ・宿泊所の予約でキャンセル待ちができるようにはならないかという意見があった。

→予約を Web からできるように変更しようとしている途中であり、キャンセル待ちもできるようにする予定であるとの報告があった。

- ・また、所内に仮眠室を設置できないかという意見があった。

→まず仮眠室を設置できるのか確認してからになる。

## 6. 次回開催予告：平成 25 年 10 月 21 日 12 時から図書棟会議室

一旦、上記のアナウンスがあったが、今年度は選挙がない為、10 月開催を見合わせる事になった。次回幹事会は 1 月もしくは 3 月の予定。